

方にあれば大丈夫でせう」

▲露西亞兵の捕虜が、日本兵士の、梅干のはいつた握り飯を食べてるのを見て、「道理で、日本兵は強いと思つた、皆小さい國旗を飲み込んで居るから」

▲甲「露西亞の浦鹽艦隊は、いつも霧に助けられるな」

「さうさ、霧と露とは親類同志だもの、然し今に日が當れば、兩方とも消えて仕舞ふよ」

考へものゝ答

●盲人にでも見ゆるものは、(答) 夢

●自分の物であつて、自分の手に入る前に、先づ人に取られるものは、(答) 寫眞

●鳥が十羽木に止つて居たのを、鐵砲で三羽射落したら、後に三羽残つたといふのは、(答) 後の七羽は驚いて飛んで仕舞つて、射られたの丈が死んでそこ

に残るから、

犬のお家

冬の寒い時、一匹の犬が出来る丈け身體を小さく丸めて居ましたが、とうとう獨りで家を作らうと思ひました。

所が、夏になりましてからは、反對に出来る丈け身體を伸ばして寝ますから、自分に、大變大きく見えました。

そこで、こんなに、大きくなつたり小さくなつたりする身體に合ふ様な家を作るのは、中々容易でないと思ひました。